

“食べログ・ショック”に襲われた「サイバーエージェント」の苦悩

# 実業界

# 4

The Analytical  
Magazine  
for Economics

2012

毎月1日発売

昭和27年2月28日第三種郵便物認可  
毎月1回1日発行 平成24年4月1日発行 第998号

## 「三菱電機」

過大請求問題で先細る  
防衛ビジネスの命脈

- 「キャノン」御手洗  
“社長復帰”で吹き荒れる  
リストラ旋風
- 三度目下方修正で露呈  
「任天堂」円高以上に  
深刻な主力商品の不振



本稿ではこれまで、口の中のトラブルとして、虫歯以外にも痛みや不快感を伴う様々な歯科での症例を扱ってきた。

その第一の理由は、歯の痛み、イコール「虫歯」という一般的な認識とは逆に、歯科の現場では、この虫歯以外の原因による口の中のトラブルが増えているという。現実を広く読者の皆さんに知って頂きたいからだ。

虫歯を除く歯や口のトラブルの大きな原因の一つが、ストレス多寡による「噛み締め過ぎ」であることはこれまでお話ししてきた通り。歯痛だけでなくアゴの痛みや、口全体の痛みにまで広がり、飲食にも支障を来し、当クリニックへ診察に來られる方も少なくない。口腔心身症の症例としてご紹介してきた。

## 十 未病の憂い

歯科医が語る現代版養生訓

ストレスが現れる病気として、一般的には胃痛や不眠が知られているが、痛みや不快感が口元に現れた場合は、相当深刻な「病気のサイン」であることを、読者の皆さんには記憶にとどめておいていただきたいものである。

口のトラブルとして、これまで「痛み」に焦点を当てて紹介してきたが、歯科の臨床の現場で近年、比較的増えている症状「口臭」について、論じてみたい。

お口の臭いに悩まれる患者さん

## 甘く見てもはダメ！ 病気のサイン「口臭」

は、これまでも一定数おられたが、歯科医として気になってきているのは、患者さんの若年化という特徴である。

なんといっても口臭の原因の多くは歯周病であるが、全身的には消化器系の疾患、さらに加齢や糖尿病、更年期障害の初期症状として口の渇き（ドライマウス）などから、口中に雑菌が繁殖しやすくなり、口臭を発する。しかし、それらの患者さん以外に、当クリニックでは若い方で二十代前半、三十代という従来の患者さんの年齢層とは明確に異なった患者さんが、近年急増しているのだ。

当クリニックだけの特徴かとも思ったが、どうやら他のクリニックでも同様だという。

なぜ、口臭に悩む比較的若い患者さんが増えているのか。その原因は「ストレス」だ。「ストレス」によるドライマウスであると考えられる。緊張したり強いストレスを受けると、交感神経が優位になり唾

るドライマウスを作り、負のスパイラルとなる。

実際には口臭がない心因性の口臭恐怖症も多い。これは口腔心身症の一つだ。若い方の口臭というのも、本稿で繰り返し述べている「病気のサイン」である。

近年増えているこの若い方の口臭というのは、一時的に治療で改善しても、また再来院される方も少なくなく、生活習慣病的なしつこさを持つている点も気がかりなところだ。

原因が「ストレス」である上、唾液の量というのは自分でコントロールできるものではなく、自律神経に支配されているものであるため、根本原因である、ストレスを軽減することでは抜本的な改善は難しいのが実情なのだ。

次号では、ある口臭に悩み当クリニックに来院された患者さんを例に、その治療と根本的な改善までの道のりをお伝えしたいと考えている。（次号に続く）

## 顎関節症

## ドライマウス

高野歯科クリニック  
亀井 英志  
Kamei Hidetshi

## 舌痛症

## ストレスは

見える！

すべては「噛みしめ」が原因だった

気がつくとも歯を食いしばっている。心当たりの方は、当コラムの亀井医師の著書「すべては「噛みしめ」が原因だった」をお読みいただきたい。未病の原因をまとめた良書です。

亀井英志(かめいひでし)

1951年群馬県前橋市生まれ。76年東京歯科大学卒業。都立病院歯科口腔外科医を経て、84年より長栄歯科クリニック院長。臨床ゲノム医療学会理事。

